

# 悩みのつぼ

心配に取りつかれています

相談者 無職女性 80代

作家 車谷長吉



あなたは心配性の人ですね。驚きました。でも、さまざまなのが心配になるのは、人生においては避けて通ることは出来ません。

お釈迦さまは、人生は四苦八苦に貫かれていると説かれました。四苦八苦とは生、老、病、死、愛別離苦、求不得苦、怨憎会苦、五陰盛苦のことです。これを避けるためには、お経をとなえること、座禅をして瞑想すること以外に道はないと諭されました。つまり人生は苦だらけなのです。私はその苦についてのみ考えて生きてきました。生、老、病、死が苦であることは誰にもすぐ分かることです。生が苦であるのは、人は

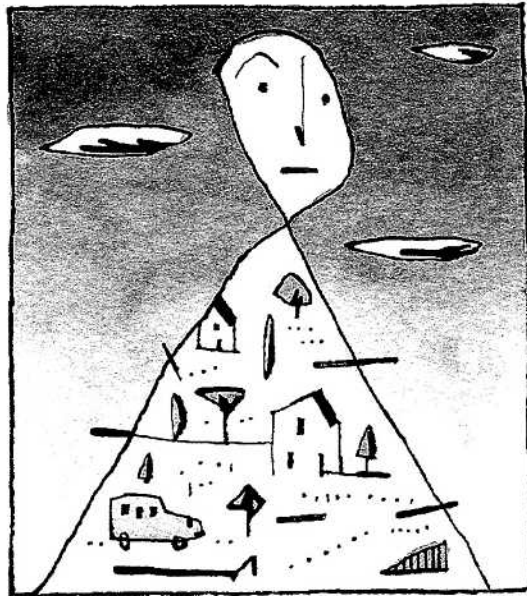
80歳を過ぎました。夫は10年前に死に、いまは東京近郊に、都内で働く孫娘と2人で暮らしています。ひざに多少痛みがあったり、コレステロールの数値が高かったりしますが、この年齢まで大病もせず、元気で過ごしてきました。

例えば、孫の帰りが予定より1時間遅くなっただけで、「事件にでも遭ったのでは」と心配になって、気が気ではありません。雨戸を開けて窓から外をのぞいたり、玄関から出てうろうろしたりします。「大丈夫、何もなく、すぐ帰ってくる」と自分に言い聞かせても、心は休まらず、帰ってきた孫に「すこ

遅れたくらいで何心配している」と怒られてしまいます。50歳になる長男も心配の種です。40歳すぎで離婚したあと再婚しようとしませんが、連絡をよこさないで、生活ぶりもわか

りそうになるところがあります。夜中によく目覚め、何かが心配になり始めたときの心細さといったありません。子どもたちは「心配のデパートだね」と笑いますが、心が休まらず、いやになります。人生の最後のステージをもうすこし安らかに過ごすために、何をしたらいいのでしょうか。

## 救いのない人生に救いを求めるから



の世に生きるためには、お金を稼がねばなりません。

とです。

この世では人殺しをしたり、詐欺を働いたりしてお金を得ようとする人もいますが、普通の人は真面目に働いて得ようとしています。この真面目に働くということがなかなか苦なのです。

五陰盛苦の五陰とは色、受、想、行、識のことです。色とは食欲と性欲。受とは感受性、感覚。想とは想像力。行とは、なにをしようという意志。識は物事を認識することです。

この五つを総称して業と言いますが、業苦が盛んになることは苦しみであるとお釈迦さまは説かれたのです。つまり、人生には救いがない

ということ。その救いのない人生を、救いを求めて生きるのが人の一生です。

ために宗教や文学があるので、世にはインチキ宗教やインチキ文学が多いのは、日々の新聞記事を見たらよく分かることです。インチキの目的は、金もうけということ。だから甘い話に人はすぐに騙されるのです。甘い話は、特に要注意です。

「子息は中年になって離婚されたのだそうですが、私は世の半分以上の女は信頼できない」と思っております。うちの嫁はんの女友達を見てみると、まず8割は虫のいい女です。地道に働いて、なるべくお喋りをしない、という覚悟がないのです。私の母親はもう84歳ですが、毎日、黙々と田んぼ仕事しています。愚痴を言いません。黙って生きることが大切です。